近畿ブロックで在宅保健師研修会を実施

～特定保健指導実施に向けてスキルアップ～

特定健診等に関する在宅保健師研修会

特定健診等に関する在宅保健師研修会は１２月２日（火）、ホテルセントノーム京都で開催され、近畿地区２府４県から在宅保健師１０５名と国保連合会職員２２名の総勢１２７名が参加した。

開会にあたり、本会の片田住夫副理事長は、今年度から始まった特定健診・特定保健指導事業には様々な課題がある中で、成果を出すことを求められており研修を有効活用しスキルアップをめざし、また初めて近畿地区在宅保健師の会員が集まっているこの機会に情報交換等を有意義なものにしてほしいと挨拶した。

午前の講演は、大阪ガス株式会社健康開発センター統括産業医の岡田邦夫先生が、「効果的な保健指導のために～生活習慣改善につなげるための保健指導～」と題して、保健指導する立場にある人に必要不可欠な要素を示し、また事例を用いて参加者に直接問いかける場面もあり、非常に実用性のある内容であった。

午後からは、国民健康保険中央会の田中一哉理事が、「保健事業推進のために～在宅保健師に期待すること～」と題し、保健師活動でデスクワークが増えてきた今日、経験のある

保健師が実際に現場に入ることで、再び現地へ赴き住民と接するという保健師活動の本来の姿になるよう、協力してもらいたいと述べた。

続いて、各府県の在宅保健師の会会長による「保健事業の推進のために～在宅保健師の会の活動状況について～」というテーマで活動発表があり、各府県の在宅保健師の会の概要、特徴的な活動並びに今後の目標等について紹介した。

休憩の後、情報交換会へと移り１５グループに分かれ、それぞれのグループで３つのテーマ（①高齢者保健への関わり②母子保健へのかかわり③特定健診・特定保健指導へのかかわり）から１つを選択しグループワークを行なった。数グループの報告内容について、国保中央会の田中理事は相談や指導等における対象者の話にしっかりと耳を傾けることが大切だと助言した。

グループごとに情報交換をする様子

閉会にあたり、大阪府国保連合会の吉澤俊彦専務理事は、この研修を活かしながら様々な分野での活躍を期待していると挨拶をした。

参加者からは「すぐにでも活かせるような講演でよかった。」、「今後も近畿地区レベルでの情報交換ができる研修会を期待している。」との感想が寄せられ研修会は大盛況に終わった。